

市政だより



市議員 津田大三の  
市政報告レポート

# 大誌

Vol. 号外

発行責任者：徳重貴昭

発刊日：10月1日

## 保守とは・・・

8月30日に第45回衆議院選挙が行われ、自民党は結党以来の大敗を喫しました。この選挙の結果は民意であり、真摯に反省しなければならぬと思っております。また、民主党との違いは何かを明確にしなければならぬと感じています。今一度我が党を再生させる為、9月28日に京都の谷垣禎一先生が自民党の新総裁に選ばれ、挙党一致体制を築き、反転攻勢していくこととなりました。新総裁は就任の会見で「保守政党としての大道を歩むべき」と述べられました。私自身も同様に思うとともに、「保守」とは一体何かを今一度考えなければならぬと思えました。

本来「保守」とは祖先から相続した制度や財産を子孫により良く相続していくことです。保守主義の父といわれるエドモンド・バークは「祖先を顧みない人は、子孫のことも考えまい」という言葉を残しています。つまり、我々の祖先が残してくださった慣習や伝統や文化などを、今生きている我々も大事にしなければならぬのは当然ですが、それらの子孫にまで受け継いでいく事が重要です。その為に地域やムラなどの共同体が大きな役割を果たしてきまして、この一連の流れを大切にすることこそが「保守」であると思っております。

故に、私は地域を活性化させていくことが一番だと考えており、それに最も効果があるのが少子化対策だと思つて

裏面に続く

[www.tsuda-daizo.com/](http://www.tsuda-daizo.com/)

います。なぜなら地域を構成するのは家族なのですから。実際私に子どもが生まれた時、この尊く小さいのちを自分の命をかけても守ってやりたいという気持ち芽生え、初めて家族になったと強く感じました。また、子どもがいる事で現在PTA会長を務めるなど地域との関わりも深くなったと感じています。だからこそ、私自身の政治目標は少子化対策に重点を置いていくのです。

さて、冒頭に申し上げましたが、自民党と民主党の違いは一体何でしょうか。民主党は「保守」ではなく、「個人尊重主義」ではないかと私は考えています。彼らは子育て支援が最重要であり、子ども手当という安易なお金配りの政策を進めています。それは総合的な少子化対策とはなりえないのです。祖先から子孫ではなく、現在の自分が大切であり、「生活が一番」となるのです。もちろん生活は大事であり、現在の経済不況の状態に政治が配慮するのは当然です。しかしながら、私は「生活が一番」では良い政治は出来ないと考えています。生きる事が最重要であるとするならば、それは獣とやら代わりが無いことになってしまいます。それでは人として生まれたにもかかわらず、悲しい事ではないでしょうか。

実際私自身も若い頃は個人主義的な考えでした。ご近所の皆様にも随分ご迷惑をおかけいたしました。しかし、地域の皆様が温かく見守っていただいたお蔭で現在の私があります。その恩返しのために地域の活



### 消 防 団 活 動

本年消防団にも入団いたしました  
地元の防火防災に少しでも  
お役に立てるよう頑張ります

性化をしていきたいのです。そして、子どもたちに日本で、京都で、中京区で生まれ育ったことを誇りに思い、この地で子どもを生んで育てていきたいと思うような社会づくり、つまり保守の下支えのある政治を今後もやり続けたいと思っています。



---

## 時代祭

---

朱雀の誇り維新勤皇隊の隊長として  
参加させていただきました  
都大路を白馬で闊歩できるという  
貴重な体験をさせていただきました

---

## 祇園祭

---

1100年以上の歴史を誇る  
地元三若神輿会に  
三条会班として毎年参加しています



---

## 神泉苑祭

---

平安京建造と同時につくられた  
地元神泉苑のお祭り  
例年稚児係として、子どもたちを  
引率しています

